相談時間等
●立科小学校/午前９時～午前11時30分
電話0267－56－3131（呼）
●立科中学校／午後２時～午後５時
電話0267－56－1076（呼）
●立科町児童館／
午前11時50分～午後１時40分
電話0267－56－0248（呼）
（担当　指導主事　中島一彦）

指導主事だより
教育委員会

なんだか　うれしい

一人ひとりの子どもを 大事に

平成24年度大津市でいじめによる中学生の自殺事件がありました。この事件をきっかけに□教育委員会の改変、□市町村毎の子どもいじめ条例の設置、□道徳の教科化が行われました。しかしその後も、教員による不祥事が続き、教育に真摯に携わる先生方が頭を垂れ、元気をなくしていくような雰囲気も生まれています。

教育はなにより、子どもと教員とが血の通った人間関係を築くところからこそ可能な営みです。
そして、そのような教育が目指すところは『山びこ学校』の「答辞」で佐藤藤三郎が言うように、
○人間一人に、ひとつしか与えられていない、「いのち」の大切さを学ぶこと
○その「いのち」を輝かせる、「生きる態度」について、考えること
という、二つに尽きるのではないでしょうか。
長野県元教育長　斉藤金司先生　著「いのちの学習」より

左記の斉藤金司先生の言われる「血の通った関係を築く営み」という教育に向かいたいと思うのです。

一時の流行に流されず、コツコツと真摯に不易を求めながら、

一人ひとりの子どもをうんと大事にして、
子どもの喜びを教師自身の喜びとし、
保護者の思いを教師自身の思いとする、

そんな立科町の学校に、先生になってくれたらいいなあ、と思いながら、このエッセイ「なんだかうれしい」を書き続けています。

たのしみ

よしむら　せいてつ

おかあさんは　なんでも　りょうりを　かんがえる
なんで　かんがえるか　きいたら
いきとううちに　なんでも　かんがえらな
あたまが　さびてしまうんやと
せっかく　生まれてきたんやから
いろんなことをして　いろんなことを　かんがえて
じんせいを　たのしまな　そんや　ゆうた
おかあさんは　たのしんどんか　ときいたら
たのしんどうし
これから　もっと　たのしむんやて
ぼく　たのしむ　ゆうたら
あそぶことやとおもてたら
しごとやべんきょうのなかにも
たのしみが　あるんやな
ぼく　べんきょう　いやや　おもうてたけど
これから　なにか　たのしみ　みつけようかな

「一年一組　先生あのね」『鹿島和夫　著』



子どもたちの作品を見る時に、大人の文芸作品を見て、いい作品だなあとか、そんな感覚で子どもたちの作品をみてしまったら、教育が成り立たなくなってしまう・・・
そんな思いを大切に教師をしてきました。左記の作品は「一年一組　先生あのね」『鹿島和夫　著』からの引用です。

よしむら君の作品もまた一年生なりに、しっかりとものを見て、深い感じ方をしていることが分かります。面白みの中に魂が揺さぶられるような思いになってくるのです。



吉村君の視点にぐぐっと思わず引き寄せられ、学ぶ意味を考え、同時に納得してしまいます。

学ぶ意味を適確にとらえる小学校一年生。そういう世界を一年生といえども確かに持っている。点数をつけて、評価するなんて、できないことです。家庭を支えるお母さんとの関わりあいの豊かさが見えてきます。